

# 熟睡の話





「やれやれ……やっと着いた」

聞いていたよりも、困難な道をなんとか越え、目的の場所までたどり着いた。

「さてと……」

目の前には見張り台と門が見えた。

まずは、見張りの人間と話をしようと思っていたら、あちらから寄ってきた。



「こんな所まで、よく来たね。旅人さんかい？」

「はい。そうです」

「今日はここに泊まるのかい？」

「できれば、そうしたいのですが」

「それはちやうど良かった。最近、評判のいい宿があるんだけど、よければ紹介しようか？」

「ありがたいです。ぜひお願いします」

「ところで、そこはどんな宿なんですか？」

「ん？いや、詳しくは知らないんだけど。なんでも不思議と良く眠れるっていう話だね」


「へえ、それは楽しみだな」

「まあなんにも無い村だけど、ゆっくりしていいって」



旅人が眠りにつくと、部屋の換気ダクトから煙が排出された。  
たちまち部屋中に煙は広がった。  
旅人は大量に煙を吸い込み、深い深い眠りへと落ちていった。






しばらくすると、煙の排出が止まる。  
今度は逆に、換気ダクトへと煙が吸い込まれ始めた。

しゅん

完全に煙は除去され、辺りは静寂に包まれた。  
その少しあと、扉からは鍵を回したような音が聞こえた。





旅人さん？  
寝ちまいましたか……？

な〜んてな……  
あれだけ睡眠ガスを吸ったら  
朝までグツスリってね

キ イ イ イ

最初、夕方に見た時はどうかと  
思ったけど、体は立派な女だな

フ…

じゅ  
ぢゅ

ぢゅ

く…く…く…ちゅちゅちゅちゅ  
反応してやがる





おっ濡れて来たかな

しっかし、メス臭が半端ないな  
これ嗅いでるだけで射精しそう



よっし、じゃあ仕上げるか



よっぴょ、よっぴょ、インしているな

ん  
ん  
ん  
ん  
ん  
ん

こうしておかないと  
本番がいきまいちだからな

ほくら、目を覚ましてないと  
入れちゃうよぉ

う……

それじゃ、行きますか……

くちゅ  
ちゅ、ふ





ん……

んんん、うおん  
んんんんんんんん

んんん  
んんん

ん

あ

中の具合は見た目だけ  
じゃあ分らないってか

あーっ…少し慣れました  
んーっ…でも良すぎたやんぐえ

ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ





うっはーやべえ腰とまんねえー  
こんなん我慢できんわ

んー...

あ

ん



おっすっげえ  
こんな出たの久しぶりだわ  
多すぎであふれてっし

げ……夜が明けてきているし  
我ながらいつまでやってんだ

「この具合が良すぎて  
連続射精記録更新したわ

やえ やえ

グロ グロ  
グロ グロ

い い





さすがにお開きにしねえとな  
メの一発と行くか



ふいっだしただした  
旅人さんもおつかれ

さてと、面倒だけど  
後処理しますか





# 眠姦の話

# もてなしの国





「すみません面倒をおかけして。預かったお荷物は丁寧に扱わせていただきますので」

「いえ、慣れていきますから」

「この国へはなぜ？」

「以前、別の旅人から評判を聞きまして。近くに寄ったら観光したいと思っていたんです」

「そうでしたが、それは嬉しいです。この後、係の者から簡単な審査があります。それでは良き滞在を」





「こんにちはは旅人さん。それでは審査に移ります。」  
「まずはこちらをご覧ください」  
男がそういうと、何も無いと思っていた壁が動きだした。  
ちよつと、目線の高さくらいの壁が観音開きになり、  
中から見慣れない装置が出てくる。  
少々、驚いたがひとまず言われた通りに装置を見る  
ことにした。





ズー

ズー  
ズー  
ズー



「滞在は何日間を希望しますか？」

「…みつか…を…きぼうします…」

「我が国では、他国の人間は滞在中に催眠メス奴隷になつていただく決まりになつていますが」

「問題ありませんか？」

「……………はい……………」

「よろしいですね。何か要求などございますでしょうか？」

「可能な限り受けさせていただきます」

「…そうびの…せいび…あと…だんやくと…」

「しよくりよう…を…」

「分かりました。出国の際にご用意いたします」

「それではメス奴隷用に細かな調整をいたしますので、もうしばらくおまちください」







「おすみになりましたか？」

「はい。まさか服まで貸して貰えるなんて思いませんでした」  
「わが国では観光客の方に不自由させないために、衣食住はすべて無料で提供させていただいているのです」

「素晴らしいです。そんな国は今まで、無かったです」

「お客様に喜んでもらえて良かったです」

「ああ……あとひとつ……」

「避妊薬も無料ですので、何も気にせず楽しんでください」

「すごいな、本当にいたれりつくせりだ」

「それでは、行ってらっしゃいませ」





「おや？見ない顔だね。この国は初めてかな？旅人さん」

「はい。さっき入国したばかりです」

「おや。それじゃあ話をするのは私が一人目かな？」

「はい。そうですね」

「ほくそれはそれは……」

「よければ」この国の流儀を教えてさしあげたいのですが。  
お時間よろしいかな？」

「はい。大丈夫です」

ルール：誘われたら断らない



なんでだろう？何かとても間違った事をしている気がする

どうされました？

いえ。少し今の状況に違和感が...

始めはみんなそう言うのです。  
ですが、これは国の決まりです。  
旅人さんも納得されたのでしょうか？

そうですね...



ああ、そんな「ジョリ」もっつと  
集中してーあゝーっもあゝー

あゝあゝ

あゝあゝ  
あゝあゝ  
あゝあゝ  
あゝあゝ  
あゝあゝ  
あゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

なに……これ……？何か……くる……

いいですよ。そのまま流れに身を任せてー！

んは

ハ

ハ

ハ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ふふ……いい潮吹きだ……  
感度はいいみたいです



その調子ですよ。自分の気持ち  
いい場所を探してみてください

ん？どうしましたか？

あ……あの……

もう……限界です……

イタシイ  
イタシイ



え……？

分かりました。それではラスト  
行きましょう

ガッ  
ガッ  
ガッ



あつ...はげ...し...  
すぎ...あ...す

ほらほらほらほらほら...!  
どっだー!!





ふぁ……♡

僕のなかぁ……精子が  
暴れてるぅ♡

ん！お！これは！  
たまらん！

いい顔になって。その様子なら  
この後もこの国を楽しめそう  
ですな



長時間のプレイで、すでに目は落ち始めていた。慣れない刺激の連続で体はだるかったが、体液でべたついたまま過ごすのは我慢できなかつた。老人にシャワーの場所を聞くと、それなら大浴場へ行ったらいいとすすすめられた。





「あの……お風呂に入りたいのですが」  
「おや、いらっしやい。旅人さんかな？」  
「もちろんですよ。さあ入って入って」  
「いくらかかりますか？」  
「おもしろい事を聞くなあ。ただに決まっているよ」  
「中は混浴だから、入浴用の水着も用意してあるよ」  
「それは、助かります」



「うわあ……中もひろいなあ……」

「うて、水着なんて誰も着てないぞ」

「やあ、旅人さん」

「あの……なぜ水着を着ないんですか？」

「水着の着用は女性だけだよ。」「」に来る野郎は見られて興奮する奴も多いしね」

「なるほど。そういうもんですかね」

「ほら俺ももつゴンゴンさ。」「」つを洗ってもらえるかい？」

「はい。洗います」

ルール：相手の説明に疑問を抱かない



おろ、いいよ旅人さん  
さあ舌を出して

は...は...は...







...じゅぽぽぽ...

悪いねえ、追加でお願いしちゃって。  
湯船につかっているから寒くはないだろう？

ふあい。だいじょうず

頭がぼろろとする...

ポ

ハ

コ  
コ

コ  
コ







うん!!

カッ  
カッ

ぐっぐー！正直その「ま」でうまうまではないけど、  
一生懸命な感じがそれはそれでいい！

で  
射精する

ヂュ  
ポ  
ヂュ  
ポ  
ヂュ  
ポ  
ヂュ  
ポ  
ヂュ  
ポ



そのまま全部、吸って！  
そう！

ん……ん……

生ぬるくてどろどろしたやつが  
のどに絡みつく……なんだか……  
これ飲んでると下半身が熱い……







せつかくお風呂に入ったのに、結局すぐに別の男性から声を掛けられ、セックスをした。  
また身体中ベタベタになった。

結局、その日の夜は来客が止むことは無く、最後のほうはさすがに意識が朦朧としていた。

本当なら僕が、男性を気持ちよくさせなければいけないのに、これではメス奴隷失格だ。

もう何人目、何回目……

そんな事を数えるのがバカらしくなって来たころ、僕は気絶するかのようになり、いつのまにか眠りに落ちた。

翌日――

けだるい身体を引きずり国の観光をしていると、急に男性に路地裏へと引き込まれた。

とくに愛撫などは無く、いきなり男根をねじ込まれる。

ルールで断れないとはいえ、「この無礼さにはさすがにムッとした。



へへ。悪いねえ。急にムラムラ  
しちゃって

いえ、ルールですので……

そうだったな。じゃあルール通りに  
メス奴隷に膣射精きめてやるか！

メスチュ

メスチュ

フッ

フッ



おちーどーうだー！  
俺のチンポはきもちいいか！  
もっとなを締めろやー！

うーん……

よし、いいぞ。やれば出来るじゃねえか！  
褒美だ！受け取れ！






めっちゃ射精たわ。身体は貧乏だけど  
あそこはけっこう良かったぜ。  
つき会ったら、また使ってやるからな。  
ありがたく思えよ

はい...。  
またお願いします

トロ  
トロ  
トロ  
トロ  
トロ  
トロ





食事中でも、誘われたら断ることはできない。  
こんな色気のない僕のどきがいいのか、食堂に来るまでに  
5人から相手を要求された。  
なんだか身体がおかしい、すればするほどイクのが早く  
深くなっている気がする。





アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

アッ、アッ、アッ

夜になると宿屋には、ひっきりなしに男性が訪れた。

昨日は知らなかったがなんでも夜は、予約制？とやらになっ  
ていて、一定時間で交代なんだそうさ。

なんだか昨日よりも、変わった趣向や性癖の持ち主が多い  
ように感じたが、そんな事は気にしていられない。

ようやく少し慣れてきた。これでメス奴隷としての仕事を  
もうちょっとこなせると思う。





ん…おっ!

なかなかいいよ  
その調子で頼む

ふあい。わかりました

ゴロ  
ゴロ  
ゴロ  
ジュ  
ジュ  
ジュ



わっ…すっ…いい  
ピクピクしてる♡

そんなに気持ちいいのかな？  
お尻の穴

それじゃあ…

もっとう気持ちよく  
しなまきゃ♡





フ  
フ  
フ

ル  
ル  
ル

フ  
フ  
フ

ル  
ル  
ル

フ  
フ  
フ

フ  
フ  
フ

フ  
フ  
フ

フ  
フ  
フ

え？あ……  
ちよう……

あ！

フ  
フ  
フ



よっぼど気に入ったんですね。  
僕の手コキ

すみません。変な  
事ばかり……

気にしてませんよ

遠慮せずたっぷり  
ダしてイってくださいわね♡



あつ…「」の顔は、  
当たりかな♡

…

「」の顔、あつかな？





ちよつと楽しいかも……♡

あああああああ！  
旅人さあん！



おっ！うまいじゃないか  
旅人さん！

さすがに、これだけこなしていれば、うまくなる。  
フェラを誉められる事が、多くなってきた。

この感じは…そろそろかな

亀頭の周りに舌を  
はわせるようにして…と…

ハルハル  
ハルハル  
ハルハル

ハルハル

ハルハル

…ハルハル…  
…ハルハル…



おっほ！射精る！  
ぜんぶ吸って！

すごい量……♡こんなの……  
飲みきれないよお……♡



もちろん、要求されれば後ろの穴でのプレイにも対応した。  
黒猫のコスチュームに着替えさせられ、黒猫ポーズのまま  
動かないように命令された。

すでにアナルビーズ付きの尻尾を装着しており、羞恥心と  
慣れない刺激で、お尻の穴がヒクヒクしてもどかしい。





お、やっぱり見立ては正しかった。  
よく似合っていますよ旅人さん

ありがとうございます

ん

ん

もい

もい

ん

ん





ん♡

それじゃあ、「し取っちゃうね

準備はいいみたいだね。  
それじゃあケツハマ始めようか



おっ♡ほっ!!



アッ! アッ! アッ! アッ! アッ!

アッ! アッ! アッ! アッ! アッ! アッ! アッ! アッ! アッ! アッ!



びしょびしょ...全部をびしょにするからなまめ♡

熱くてドロドロしたやつがお腹に入ってくるぅ♡





いや〜びっくりしたわ。やっと順番が来たと思ったら、まさかこんなエロい恰好した女に会えるなんてな

これは……着替える時間がなくて

まあエロければどうでもいいよ。それと語尾は、にゃを付けて、淫乱メスネコになりきれよ

わ……分かりました……にゃ



おちっ！

ったくよおー！せっかぐしっくくら  
楽しもっつとっ思ってたの！。お前が  
ヒロすきるから我慢できねえわ

ひっ♡

ハッ♡

しょうがねえから時間いっばい  
淫乱メスネコマンコ突いてやるわ！

ありがたっ！！すっすっ…！！やっ♡



うそ…本当にこのまま続ける気？こんなのおかしくなるっ…♡

けっころキクだろ？  
さっきからイキっぱなしだもんな

お客様にも…インテほしいにゃん♡

可愛い「うん」ってしゃねーか。  
それじゃ、一発くれてやるか！



ふんふんふん! どうだ!  
今日いち絶頂アクメ決めろや!

んあッ

い……く……♡  
イキます……にゃあん!





よし、まだ時間あるし。少し休んで  
続けるか……って。おっい旅人さん？

ひ……ひびく……♡

「おっい」  
「ちゃん……れすかあ♡」

あ……震ってるかな……  
少しやりすぎたかなをまあいいぞ、  
マンコだけ貸してまらあ♡



あゝ……？なんだこれ……？体がふわふわするっ♡  
あれ……？いま……僕……何をしているんだっけ？

……  
頭が真っ白で……よくわからないや……。

明日は……しゅっくくの……準備も……あるし……

「そのまま……なにっもなん……」





「もう出発するのですか？」

「はい」

「わが国はどうでしたか？」

「とても素晴らしかったです。食事はおいしいし、お風呂は大きいし」

「まさか、すべて無料で楽しめるなんて。備品までいただいでしまつて。信じられないもてなしでした」

「それに……」

「それに？」



#F(∩)♡

「？」

（あれ……なんだ……？いま、一瞬、体に違和感が……）





「旅人さん？」


「あう、いえ……。とにかく素晴らしかったです」

「そうですか、それは良かったです。他の方にも是非この素晴らしい、もてなしの国を教えてあげてください」

「そうですね、そうしたいと思います。それでは……」

ルール：出国する際は滞在中の記憶は全て書き換えられる





# 催眠の国

*end*